

会計学総論		講義	教授 安藤 鋭也
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目、教職科目	科目ナンバリング	23010102 25320208

1. 授業のねらい・概要

会計は、企業活動や企業の状態を、数値で認識・測定・記録・報告する行為です。このような会計を、簿記の結果としての会計情報の利用方法から学びます。最初から(簿記を介さず直接)会計に接することで、(会計に一層)興味がわき、会計学全体(総論)が理解しやすくなります。この授業では、(簿記との適切な連携を保ちつつ)会計の各領域を出来るだけ分かりやすく丁寧に説明します。

2. 授業の進め方

テキストの内容に沿った講義形式を基本とします。同時に、新聞・雑誌などから具体的な事象を取り上げて説明します。いずれにおいても、皆さんの積極的な参加を心から歓迎します。

3. 授業計画

1. ガイダンス、第1章 会計ってなに	9. 第9章 財務諸表は信頼できるの
2. 第2章 会計ってどんな資格があるの	10. 第10章 会社の税金はいくらになるの
3. 第3章 会計はどう利用するの	11. 第11章 グローバル経済における会計ルールってなに
4. 第4章 企業の成績はどうやってみるの	12. 第12章 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの
5. 第5章 会計は経営にどう役立つの	13. 第13章 ボランティア活動に儲けが必要な
6. 第6章 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの	14. 第14章 自治体の会計はどうなっているの
7. 第7章 会計情報はどうやってつくられるの	15. 第15章 簿記・会計はどこからやってきたの
8. 第8章 会計制度はどうなっているの	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読んできて下さい(30分程度)。また会計学を広く学ぶことから復習が大切です。前回の授業内容は、配布資料も使って理解に努めましょう(1時間程度)。もし不明点や疑問点があれば、次回の授業で遠慮なく質問して下さい。一緒に解決しましょう。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を(試験)終了直後に説明します。

6. 授業における学修の到達目標

会計の全体的な内容を理解することが目標です。

7. 成績評価の方法・基準

平常点 50%(授業への取り組み姿勢)およびレポート結果 50%の割合で成績評価を行います。

8. テキスト・参考文献

テキストは、上野清貴[編著](2018)『スタートアップ会計学(第2版)』同文館出版を使用します。本テキストが改訂された場合、授業では最新版を使用します。参考文献は適宜紹介します。

9. 受講上の留意事項

前期の「会計学基礎」同様、会計学に初めて接する方もおられるでしょうから、まずは会計(や簿記)を好きになってもらいたいと思います。

受講にあたって、会計や簿記の知識は問いません。ただ授業は積み上げなので、毎回出席されることをお勧めします。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当します。本授業は、商社(経理部門)における実務経験も活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりです。